

南海トラフ地震

減災へ「個人努力を」

内閣府有識者
会議座長 阿部氏 高知市で講演

内閣府の南海トラフ
巨大地震モデル検討会
の座長を務めた阿部勝
征・東京大学名誉教授
が26日、高知市内で講
演し、「地震予知は現在
の科学や技術では難し
く、当てにできない。
耐震化や津波避難など
個人の努力で被害を減
らすことはできる。息
の長い対策が必要だ」
と訴えた。



「息の長い対策が必要だ」と訴える阿部
勝征・東大名譽教授
(県民文化ホールⅡ石丸静香撮影)

「懸念される南海ト
ラフ巨大地震」と題し
て、約500人を前に講演
した。
阿部氏は「東日本大
震災までは、これまで
起きた地震の最大を考
えればいいと思ってい
たが、大きく反省した」
とした上で、2012

知識に基づいて最大ク
ラスを考えるように
し、(03年に推計した)
震度分布や津波高を点
検し直した」と述べ
た。

一方で南海トラフ地
震の想定は、南海トラ
フ巨大地震のほか、南
海単独や南海と東南海
の2連動など七つのケ
ースがあると指摘。
「七つのどれが起きる
か分からない」とし、
「耐震化や高地移転、
高い避難場所の整備な
どで想定外を想定内に
取り込んでいくことが
大事だ」と強調した。

講演会は高知地方気
象台などの主催で、同
気象台の荒谷博・台長
は緊急地震速報につい
て説明した。

荒谷氏は「13年8月
の緊急地震速報を受け
ての対応調査では、
『何もなかった』と
いう回答が、東北や関
東に比べて四国はとて
も多かった」と述べ、
「南海トラフ地震では
速報が鳴ってから猶予
があり、身の安全を守
ることができ。周知
とともに実践的な訓練
が必要だ」と訴えた。
(村上和陽)